



平成26年度

CJKプロジェクト・バングラデシュ派遣

報告書

平成27年2月20日（金）～3月1日（日）





# 目 次

バングラデシュについて	1
派遣員名簿	2
プログラム	3
日程詳細	4
事前集会・事後集会日程	6
ハウス・トゥ・ハウス	7
ブース・デモンストレーション	
カルチャー	8
レクチャー	10
フィルター装置の作り方	13
国際交流プログラム	14
評価会	17
会議議事録	18
閉会式/インターナショナルナイト	19
派遣隊員の感想	
古田 尚輝	20
大橋 えつこ	21
青柳 里奈	23
伊東 なみ子	25
第2回C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣報告	
近藤 明彦	27
伊東スカウトのメモリー・オブ・バングラデシュ	30
お気に入りの写真	32
便利だった物事・準備しておくべきだった物事	33
参考資料一覧	34



## バングラデシュについて



- 国名： バングラデシュ人民共和国
- 面積： 144,000 平方キロメートル
- 人口： 1 億 5,250 万人
- 首都： ダッカ
- 民族： ベンガル人が 98% を占める。その他はミャンマー国境沿いに住むチャクマ族という仏教系少数民族などが居住している。
- 宗教： イスラム教徒 89.7%， ヒンズー教徒 9.2%， 仏教徒 0.7%， キリスト教徒 0.3%（2001 年国勢調査）
- 言語： 公用語はベンガル語
- 政治体制： 共和制
- 国家元首： Md. アブドゥル・ハミド大統領
- 首相： シェイク・ハシナ
- 軍事： 兵役は志願制となっており、12,284.6 億タカ（対経常予算比 6.7%）の軍事予算の下、陸軍 126,150 人、海軍 16,900 人、空軍 14,000 人の兵力を擁している。
- 産業： 衣料品・裁縫品産業、農業
- GDP： 1,156 億ドル（2013 年度、バングラデシュ中央銀行）
- 経済成長率： 6.18%（2013 年度、バングラデシュ統計局）
- 労働人口市場： 5,370 万人 農業（48.1%）、サービス業（37.4%）、鉱工業（14.6%）
- GDP 内訳： サービス業（49.5%）、工業・建設業（31.3%）、農林水産業（19.3%）
- 通貨： タカ（1 米ドル=79.10 タカ）（2012 年度平均、バングラデシュ中央銀行）
- 在留邦人数： 853 人（2013 年 10 月 1 日現在）
- 歴史： 現在バングラデシュが位置する地域には古くから文明が存在し、紀元前 600 年頃にはアーリア人がベンガル北西部にまで達した。その後、数々の王朝の属領となる。12 世紀以前は仏教・ヒンズー教の影響を大きく受け、13 世紀頃にイスラームが入る。16 世紀にイスラム教徒が多数派を占めることとなる。18 世紀末、英国の東インド会社により植民地化し、その中心地となった東ベンガルの繁栄は続く。やがて民族運動により、イギリスはヒンズー教徒の住む現インドとイスラム教徒の住む現バングラデシュの地域に分割する。この措置は宗教間の溝を広げたため、1911 年に撤回されるが、のちの印パ分離独立へとつながる。1947 年インド独立を契機に、パキスタン・バングラデシュは東西を挟んで分離。現バングラデシュはパキスタンに属したが、両地域間の文化は大きく異なっており、距離も 1000 キロ以上離れたため、溝は深く、パキスタンが独立するも摩擦は増す一方であった。政治の中心も当初は西側であったが選挙により人口で圧倒的に勝る東ベンガルのアワミ連盟が勝利。その後、軍が東パキスタン首脳部を拘束し、内乱となる。西側でパキスタンと対立していたインドから支援もあり、バングラデシュ独立戦争を経て、1971 年、バングラデシュ人民共和国として独立。

## 派遣団員名簿

氏名	役務	所
近 藤 明 彦	派遣団長	日本連盟国際委員会副委員長
古 田 尚 輝	クルーリーダー	千葉県連盟 八千代習志野地区 八千代第5団 ローバー隊
青 柳 里 奈	会計・備品	千葉県連盟 千葉地区 千葉第8団 ローバー隊
大 橋 えつこ	記録・広報	神奈川連盟 江南地区 平塚第7団 ローバー隊
伊 東 なみ子	レクリエーション	神奈川連盟 江南地区 平塚第7団 ローバー隊



イラスト：伊東なみ子

## プログラム

日付	朝(9:00-13:00)	昼(15:00-18:00)	夜(19:00-22:00)	活動場所
2月20日 (金)		準備訓練 結団式	出発	ボースカウト会館 羽田空港
2月21日 (土)	タイ 到着 出発	ダッカ 到着		タイ国際空港 ダッカ国際空港 ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター
2月22日 (日)	事前会議 実施予定地視察	開会式	歓迎夕食会	ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター ガジプール
2月23日 (月)	ハウス・トゥ・ハウ ス・キャンペーン 1日目	翌日事前準備	台湾ナイト	ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター ガジプール
2月24日 (火)	ハウス・トゥ・ハウ ス・キャンペーン 2日目	焼却炉作り プロジェクト	ジャパンナイト	ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター ガジプール
2月25日 (水)	ブース・デモンス トレーション 1日目	翌日事前準備	コリアナイト	ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター ガジプール
2月26日 (木)	ブース・デモンス トレーション 2日目	翌日事前準備	バングラデシュ・ ナイト	ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター ガジプール
2月27日 (金)	スタディ・ツアー VDPアカデミー	評価会	インターナシヨナ ルナイト	ナショナル・スカウト・ トレーニング・センター ガジプール VDPアカデミー
2月28日 (土)	ダッカ 出発	タイ 到着	タイ 出発	ダッカ国際空港 タイ国際空港
3月1日 (日)	日本 到着	解団式 事後集会		羽田空港 ボースカウト会館

## 日程詳細

日付	時間	活動内容	場所・備考
2月20日	12:00	ボーイスカウト会館集合、準備訓練	ボーイスカウト会館
	16:30	結団式	
	20:00	ボーイスカウト会館出発	
	21:20	羽田空港到着	羽田空港
	24:20	羽田空港出発	
2月21日	5:30	バンコク国際空港到着	バンコク国際空港
	10:15	バンコク国際空港出発	※韓国派遣団と合流
	12:25	ダッカ空港到着	※バングラデシュ スカウト・指導者と合流
	16:00	スカウトセンター到着	スカウトセンター
	20:40	会議	※未明に台湾派遣団到着
2月22日	8:00	全体会議、自己紹介	スカウトセンター
	9:15	スカウトセンター出発	
	11:00	ローバースカウト・トレーニングセンター到着	ローバースカウト・ トレーニングセンター
	11:20	プレゼンテーション	
	13:25	ローバースカウト・トレーニングセンター出発	
	14:15	メジャプールスクール到着	メジャプールスクール
	15:00	開会式	
	17:20	メジャプールスクール出発	
	18:05	スカウトセンター到着	
	18:50	歓迎夕食会	
	20:40	会議	
2月23日	8:40	スカウトセンター出発	スカウトセンター
	9:20	メジャプールスクール到着 ハウス・トゥ・ハウス	メジャプールスクール
	12:30	メジャプールスクール出発	
	13:15	スカウトセンター到着	スカウトセンター
	19:30	台湾ナイト	
	21:30	会議	

2月24日	8:25	スカウトセンター出発	スカウトセンター
	9:10	メジャプールスクール到着	メジャプールスクール
		ハウス・トゥ・ハウス	
	13:05	メジャプールスクール出発	
	13:50	スカウトセンター到着	スカウトセンター
	16:00	焼却炉製作	メジャプールスクール
20:00	ジャパンナイト	スカウトセンター	
2月25日	8:30	スカウトセンター出発	スカウトセンター
	9:10	メジャプールスクール到着	メジャプールスクール
	10:30	ブース・デモンストレーション開始	
	12:40	ブース・デモンストレーション終了	
	13:00	メジャプールスクール出発	
	13:50	スカウトセンター到着	スカウトセンター
	20:30	コリアナイト	
	22:30	会議	
2月26日	8:30	スカウトセンター出発	スカウトセンター
	10:00	シャンパリスクール到着	シャンパリスクール
	10:30	ブース・デモンストレーション開始	
	13:00	ブース・デモンストレーション終了	
	13:30	シャンパリスクール出発	
	14:10	スカウトセンター到着	スカウトセンター
	20:00	バングラデシュナイト	
	22:40	会議	
2月27日	8:30	スカウトセンター出発	スカウトセンター
	9:00	VDPアカデミー到着	VDPアカデミー
	11:00	VDPアカデミー出発	
	16:30	全体会議	
	18:00	閉会式、インターナショナルナイト	スカウトセンター
2月28日	10:40	スカウトセンター出発	スカウトセンター
	14:35	ダッカ空港出発	ダッカ空港
	17:35	バンコク国際空港到着	バンコク国際空港
	23:30	バンコク国際空港出発	
3月1日	5:30	羽田空港到着	羽田空港
	8:30	ボーイスカウト会館到着	ボーイスカウト会館
	9:30	解団式	

## 事前集会・事後集会日程

日付・場所	内容	参加者
2014年12月23日(火) 第1会事前集会 ボーイスカウト会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣内定者の顔合わせ</li> <li>・プロジェクトの設立の経緯と内容について</li> <li>・過年度派遣員との会談</li> <li>・今後の活動展開について</li> </ul>	鈴木国際委員長 近藤派遣団長 伊東スカウト 古田スカウト 過年度派遣員： 原科スカウト 白井スカウト
2015年 1月 5日(月) 第2回事前集会 かながわ県民センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役務の決定</li> <li>・昨年度ベースライン・サーベイからのプロジェクトの企画</li> <li>・ベースライン・サーベイの内容検討</li> <li>・ブース・デモンストレーション及びジャパンナイトの企画</li> <li>・奉仕内容の検討</li> </ul>	近藤派遣団長 伊東スカウト 大橋スカウト 古田スカウト
2015年 1月31日(土) 第3回事前集会 かながわ県民センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢島アドバイザーによる現地についてのお話</li> <li>・ベースライン・サーベイの作成</li> <li>・ブースデモンストレーション(カルチャー)についての内容検討</li> <li>・プログラム全体の内容について</li> </ul>	鈴木国際委員長 近藤派遣団長 青柳スカウト 伊東スカウト 大橋スカウト 古田スカウト バン格拉デシュお話し： 矢島アドバイザー
2015年 2月12日(木) ～13日(金) 第4回事前集会 ボーイスカウト会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターナショナルナイト及びジャパンナイトの企画決定</li> <li>・ベースライン・サーベイのアンケート決定</li> <li>・各プロジェクトの内容理解及び企画の決定</li> <li>・追加役務の決定</li> </ul>	近藤派遣団長 青柳スカウト 伊東スカウト 大橋スカウト 古田スカウト
2015年 2月18日(木) 第5回事前集会 かながわ県民センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書類の最終確認</li> <li>・直前集会での内容の決定</li> </ul>	伊東スカウト 古田スカウト
2015年 2月20日(金) 直前準備訓練 ボーイスカウト会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣団認定式及び結団式</li> <li>・持ち物の最終確認</li> <li>・企画内容の最終確認</li> <li>・日程の確認</li> </ul>	鈴木国際委員長 片寄国際委員 近藤派遣団長 青柳スカウト 伊東スカウト 大橋スカウト 古田スカウト
2015年 3月 1日(日) 解団式・第1回事後集会 ボーイスカウト会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解団式</li> <li>・報告書の内容について</li> </ul>	近藤派遣団長 青柳スカウト 伊東スカウト 大橋スカウト 古田スカウト
2015年 3月 9日(月) 第2回事後集会 ボーイスカウト会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書の内容検討</li> <li>・報告書のレイアウト決定</li> </ul>	近藤派遣団長 青柳スカウト 伊東スカウト 大橋スカウト 古田スカウト
2015年 3月11日(水) 第3回事後集会 ボーイスカウト会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書内容最終確認</li> </ul>	近藤派遣団長 青柳スカウト 伊東スカウト 古田スカウト

## ハウス・トゥ・ハウス

2日間に渡って、メジャプール、シャンパリ地域へブース・デモンストレーションの案内とゴミ拾いを行った。2日目は、各家庭へ石鹸や歯ブラシなどの日用品の入った袋を手渡したり、サンダルを配布したりした。両地域とも、バングラデシュの中では中流程度の生活をしている地域のようにだが、すべての家庭に水道設備やトイレがあるわけではない。

トイレも掘った穴にコンクリート製の板を引いただけのものが多く、扉は、穀物などが入っていたと思われる袋がかけてあるだけだった。日本からみるとかなり質素なつくりのものが多かったと思う。家は土壁やレンガを組んだもので、台所は外にある。お昼時に伺うとカレーのスパイシーな香りがあたりに漂っていた。

また、若くして結婚、出産する女性たちや学校へ通っていない子どもたち、住所がないなど、衛生問題だけではなく、さまざまな問題がある。

### <一日目>

場所：メジャプール周辺

初日は、ゴミ拾いをしながら、町内を巡り、25日のブース・デモンストレーションの案内を行い、国際班全体で333軒のお宅を訪問することが出来た。スカウトたちは簡単なベンガル語や英語、バングラデシュのスカウトの助けを借りながら地域の方へ案内を行った。ゴミ拾いでは、道端におちているビニールゴミを中心にゴミを拾った。ゴミの内容としては、お菓子や日用品の袋が多かった。

### <二日目>

場所：メジャプール、シャンパリ周辺

第4班以外の班はゴミ拾いを行いながら、前日に引き続きゴミ拾いとブース・デモンストレーションの案内を行った。この日は、石鹸や歯ブラシなどの日用品を一軒一軒のお宅に配った。その他に、靴を履いていない人へサンダルの配布も行った。真新しいサンダルや歯ブラシをもらった子どもたちの嬉しそうな笑顔が印象的だった。班によっては、バングラデシュの親族宅へ一休みさせてもらっていた。この日は85軒のお宅をまわった。



## ブース・デモンストレーション（カルチャー）

カルチャーブースでは日本の文化を紹介した。予定としてはスケッチブックを用いたデモンストレーションや折り紙を使用した体験、そして新聞紙で兜を作りプレゼントする予定であった。

### <1日目>

カルチャーブースはレクチャーブースの隣りに場所を設けた。様々なものを用意していたが、人の流れが速いため簡単な文化紹介と兜の折り方を教えた。

文化紹介は私達が用意した英語台本をバングラデシュのスカウトがベンガル語にして代わりに紹介した。訪れた方は皆珍しそうに伊東スカウトの絵に興味を示していた。また兜の折り方はほぼジェスチャーで行った。日本のスカウトはベンガル語が話せないため、皆が見やすい様に手本を出した。一度段階を終わらせたなら一人ひとりの手元を見て確認し、合っていたら親指を立てながら笑顔、間違っていたら折り方を再度教えた。兜の折り紙は特に子供に人気であり、真剣に取り組んでいた。

### <2日目>

2日目もレクチャーブースの隣りで行ったが、台湾派遣団だけ別の部屋で行った。人の流れは1日目より早く、文化紹介は断念せざるを得なかった。その代り折り紙で大量に兜を作り、それをプレゼントする事にした。バングラデシュの簡単な遊びで6人選び彼らに兜を渡した。

## 全体の反省

日本のカルチャーブースでは当初、大人数を相手にして、スケッチブックに描いた日本文化を紹介し、その後来場者を二手に分けて書道ブースと折り紙ブースの2つを展開する、という流れを考えていた。しかし、実際にはもっと短いスパンで人々に教えることが必要とされたり、来場者数にバラつきがあったりといった要因で最終的には折り紙に特化したブースに変化せざるを得なかった。それ以外にも日本のスカウトによるベンガル語を使った説明を行うとしたが、実際にはバングラデシュのスカウトに代読してもらう方がより来場者にも分かりやすいように見えた。また、何よりもプログラムの数に対して人数が圧倒的に不足していた。恐らく、バングラデシュのスカウトの力無しにはブースを回すこともままならなかっただろう。



・台湾

小さい提灯のような紙製のストラップに漢字を書いたものを作っていた。台湾の漢字と名前を周囲に書き、紐を通してつるしていた。漢字の熟語の意味や提灯の意味を紹介していた。



・韓国

韓国の童謡を流しダンスをした。韓国スカウトが手本を見せ、一緒に踊る。振り付けは簡単なものであり、主に子供に人気であった。



## ブース・デモンストレーション（レクチャー）

レクチャーブースで私たちはスケッチブックによるレクチャーとペットボトルで作った簡易ろ過装置を用意し企画に臨んだ。今回伝えたかったことは、水を安全に飲む方法はたくさんあるが最も簡単かつ安全な方法として雨水を利用する方法があるということだ。雨水はバングラデシュで問題となっているヒ素やバクテリアをあまり含まないため雨水の利用を促して安全に生活用水を確保してもらおう。また、砂や泥をたくさん含む水をフィルターで濾すことでよりきれいにすることができると伝えることが魂胆である。

### <1日目>

1日目は宿泊地からおよそ15分程度の距離にあるミジャプール中学校にて展開されました。教室を2つ借り、それぞれ部屋の隅にブースを展開しデモンストレーションを行った。

私たちは事前に作っておいた資料と原稿をバングラデシュのスカウトに手渡し、通訳してもらうことにした。そしてデモンストレーションとしてペットボトルで作った簡易ろ過装置の実演を行った。しかし、実際にデモンストレーションを実施してみると早速問題点が浮上してきた。それは、①内容が難しすぎて村の人々（特に子供）に理解できないこと、②文章が長すぎることの2つだ。事前集会で「現地の学習能力は高い方ではないと考えておいた方が良い。」と言われていたのにも関わらず文章をうまく展開しようとし、長くなってしまったが故の事態だったと思われる。この対応としてはバングラデシュのスカウトに要点だけを伝えるようにしてもらい、できるだけ内容を簡潔にしてもらった。その結果全体で7～8分かかった時間も半分の4～5分に短縮され、渋滞にならずにすんだ。

また、その日の最後に村の住人であるおばあさんに「ろ過のことは既に知っている。それに、私たちは汚い水を飲んでいようつもりはない」と言われた。この言葉から私たちは現地の人たちに対して勝手な解釈を持ってしまうていたこと分かった。この一週間前に急な場所の変更があったからとはいえこれでは村人たちにいい印象をあたえないと判断した。そして、この日の問題点を改めて検討し、次の日に生かすことにした。

### <2日目>

2日目は宿泊地からおよそ1時間の距離にあるバンシェル・ゴバメン小学校にて展開された。ここでは一室のスペースが前日より狭いため教室を4部屋借りて実施（レクチャーブース2部屋、カルチャーブース2部屋）し、私たちは前回よりも内容を短くし、要点（雨水が最も安全かつ簡単に飲み水を確保できる方法であるということと、フィルタリングについて）のみをまとめて再度デモンストレーションに臨んだ。

2日目は前日の欠点を改善し、バングラデシュのスカウトの協力を経た結果、村人にも伝わりやすくなったらしく、スムーズに進んだ。また、現地の人々とベンガル語を駆使して交流もした。

## 全体の反省

今回反省すべき点は3つ

- ① 現地のスカウトに頼り過ぎてしまった点
- ② 内容を難しくしすぎた点
- ③ デモンストレーションという言葉に捕らわれすぎてしまった点  
であると思われる。

準備の段階で英語の文章は出来上がってはいたものの、ぎりぎりまで現地スカウトに提出しなかったため今回1日目で生じたような問題点が起きてしまったと考えられる。

また、原稿を作る際にも自分たちの学習水準で考えてしまったために内容をキレイにまとめようとして難解になってしまった。

さらには、スケッチブックとフィルタリングの実演では本当にただのデモンストレーションとなり聞いている側として既に知っている知識であるとするれば、時間の浪費となってしまう。

そのため反省として以下を提案しようと思う。

- ① バングラデシュのスカウトに頼らずにできるような企画を検討する。
- ② 言葉は短く、内容を簡単に、全体として参加できるような企画を目指す。

韓国派遣団や台湾派遣団を見ていると、子供や大人も参加できるような企画となっていた。こういった企画を通じて伝えることでより親身にかつ、体験から学習しやすいのではないかとと思われる。また、今回の企画では余裕をもって行動することがよりよいプレゼンテーションに繋がると考えられる。



#### ・台湾

台湾は「栄養」のテーマから歯ブラシと模造紙を用いて歯磨きの指導をしていた。英語で説明しそれをベンガル語に訳してもらいながらレクチャーしていた。食後や寝る前に歯を磨く理由やどこを重点的に磨くかを説明していた。



#### ・韓国

韓国は「プライマリー・ヘルス・ケア」のテーマから手洗いについてのレクチャーをしていた。最初に身体計測を行い、写真を撮っていた。記録と写真をうちわに書いて村人たちに渡していた。その後、手に絵の具をつけてうちわに記念の手形をつけた後、残った絵の具を石鹸で落とすときに手の洗い方を指導していた。



#### ・バングラデシュ

バングラデシュは医療関係のブースを展開しており、経口補水液の作り方をレクチャーするとともに、妊婦・乳幼児関連の公衆衛生・ニュートレーション関連のレクチャーを設けていました。更に医師による無料の医療相談や医薬品の配布を行っていた。



## フィルター装置の作り方

必要なもの

- ・砂 ・小石 ・ペットボトル（2 L） ・活性炭
- ・脱脂綿 ・ガーゼ ・輪ゴム

作り方

- ① 始めに、ペットボトルの底の部分をカッターで切り取る。（約4～5 cm）  
ペットボトルのふたを取り、ガーゼを被せて輪ゴムで留める。
- ② 底に綿を詰め、小石を隙間なく約4 cm詰める。
- ③ 間に綿を敷き、活性炭を約4 cm詰める。このとき、小石と活性炭が混ざらないようにしっかりと綿を敷く。
- ④ 再度活性炭の上に綿を敷き、砂を約8 cm詰める。このとき、砂と活性炭が混ざらないように綿を敷いて完成。

もう一本のペットボトルで作った受け皿をセットして上から汚れた水を流し込む。

これを何度か繰り返して水をきれいにする。

注意点

- ・ろ過したからと言って必ずしも全ての危険要素が除去されたとは限らない。  
そのため、ろ過した後であっても必ず煮沸殺菌や塩素消毒を行う。
- ・上記の厚さはあくまで目安である。各層の厚さによって水が流れ落ちる速さや純度が異なってくるので調節して再度実験する。



## 国際交流プログラム

毎晩夕飯の後に、各国が主催してパーティを開催した。所要時間は2時間から3時間を予定していたが、思いの外盛り上がっていたため時間を越してしまっていた。毎日異なった文化に触れることが出来たため良い経験となった。また、日替わりで来賓の方も招きおもてなしをした。

日本のプログラムの感想と共に他の国のプログラムも紹介していく。

### 台湾ナイト（2月23日）

女子スカウトはチャイナ服に着替え、手拍子と歌と共にゲストを迎えた。その後男子スカウトも衣装に着替え、台湾派遣団全員で踊りを披露。ゲームは多種多様であり、馴染み深いビンゴや口にくわえたストローで輪ゴムを運ぶものもあった為会場は常に盛り上がっていた。最後は男女で二重の大きな輪を作り、ペアでダンスを踊った。他の班のスカウトと交流を持つ事が出来る良い機会となった。台湾のお菓子を食べながら良いひと時を過ごす事が出来た。



### ジャパンナイト（2月24日）

オープニングは正座で始めた。日本語と英語で歓迎の言葉を述べ、深々と礼をした。正座をするとより一層礼儀正しく見えるようで、他国のスカウトに好評であった。

その後は日本のことわざを用いた伝言ゲーム。お題は『備えあれば患いなし (be prepare)』『光陰矢の如し (time goes by quickly)』『百聞は一見に如かず (seeing is believing)』。慣れない発音に苦戦したり、言葉の意味に興味を示すスカウトが多くいた。特にバングラデシュのスカウトは『ひゃ』が発音できず、『しゃ』と言ってしまふ。判定は公平にするために、近藤派遣団長にお願いした。

休憩を挟んだ後は日本のスカウトが音頭をとってウルトラマンの夜回り（ジェスチャーゲーム）を輪になって遊んだ。ウルトラマンは日本の有名なヒーローで人気だと説明しゲームを始めた。台湾や韓国スカウトの中にはウルトラマンを知っている人もいた。

締めは「世界にひとつだけの花」をBGMにしたスライドショーを披露。英訳付きの歌詞と写真を流し、ランダムで100円均一の桜の造花をプレゼントした。古田が身を包んだ日本ジャンボリーの法被は好評であり、他のスカウトも着たがっていた。食事はうどんとフルーツポンチ。白玉の見た目と食感に驚く人が多かった。

今回は人手が少なかつたうに準備時間が足らなかつた。そのためバングラデシュのスカウトに手伝っていただいた。また盛り上がるかどうか心配であったが、テンションが高い台湾・韓国・バングラデシュのスカウトに何度も助けられた。各隊のリーダーの方々にも手伝っていただいた。



## コリアナイト（2月25日）

チマチョゴリ等の伝統的な衣装に着替えた韓国スカウトは華やかであった。BGM付きのテコンドー演武を見た後は借り物競争。突然上着を取られることもある大胆なルールであった。その後は靴飛ばしゲーム。休憩の後はサングラスと夏服に着替えたスカウト達のダンス。ジェスチャーゲームを経て日本の面子に似た遊びも行った。食事はキムチとお菓子だった。日本人にとって馴染み深いものがいくつかあり、楽しむことが出来た。



## バングラデシュナイト（2月26日）

ベンガル語で行われた寸劇で始まったバングラデシュナイトは私達にとって新鮮なものばかりであった。見たことがない衣装やダンス・音楽は鮮やかであり、非常に綺麗だ。簡易クリケットや輪になってダンスを踊った後は屋外で小型の熱気球（と爆竹）を二つあげた。バングラデシュ人はもしかしたらロマンチストが多いのかもしれない。食事は動物の形をした砂糖菓子、米を使ったお菓子、ポップコーン、甘酒を濃くしたような飲み物など珍しいものを味わった。



## 評価会

プロジェクト最終日、この評価会が開かれ、各国がこの6日間に及ぶプロジェクトで思ったことやこうした方が良いのではないかという提案を話し合った。私たちは話し合った結果、様々なポイントを以下のようにまとめた。

### 感謝したい点

この期間中、無事にけがや事故なく企画を実行することができた。これはバングラデシュのスカウト達が多く配慮してくれたからである。多くの事情でプログラムが変更になったにも関わらず、彼らはたった一週間という短期間でスケジュールを調整してそれを完璧にこなしてくれた。もし、彼らの尽力がなければ確実にこのプロジェクト自体が失敗していた。まずそこに感謝することが一点。

また、私たち日本のスカウトはあまり英語が得意ではなかったが他の台湾、韓国、バングラデシュのスカウト達は無視せずやさしく接してくれた。これらの点には本当に感謝したいと思っているのと同時にプロジェクト全体を通じてのいい点だとも思っている。

### 問題点

今回のプロジェクトで最も問題と思われる点は、それぞれのスカウトがプロジェクトの目的を把握しきれていなかったことである。例えば今回のベースライン・サーベイのように、事前に実施させていたということ当日まで知らされていなかった。そのためそれに沿った企画を用意したつもりが若干のずれが生じてしまった。

以上の事より私たち日本は次の2点を提案した。

1つは、私たち4カ国のスカウトが互いに事前集会の時点からより多くコンタクトを取り合い、互いの国の必要としている情報を開示、要求すること。なぜなら、このプロジェクトにおいて企画を立てる段階で十分な情報がなければ企画を立てることができず、また明確な目的を定めることができないからだ。それこそ、ベースライン・サーベイはブース・デモンストレーションなどの重要な企画の基盤となるため事前の質問内容の開示は外せない。次に、活動の目的をハッキリさせる為に話し合いの場を持つこと。

今回、プロジェクトの準備をするにあたって、私たち日本派遣団は前年度の資料を参考に企画を立てた。そのため、ある程度の予想を持ちながらバングラデシュに来たわけだが実際のそれとは異なっていた（村の生活水準が良い、ヒ素の問題がないなど）。そのため、私たちはその違いに若干戸惑ってしまったことがあった。また、各企画では目的に沿った行動ができていない場面が多く見受けられた。また、ハウス・トゥ・ハウスでは国際班ごとに違った活動をしているという報告も上がっていた。これらは各々が企画の目的を理解していないからだと思える。そのため事前集会において目標をハッキリさせることにより、それぞれが企画の主旨をより理解できるのではないかと考えたからだ。

## 会議議事録

### 1 日目

グループごとの視察

視察にしては騒ぎすぎている。

行動は目的に沿ってすべき。

時間を守る。

→計画において重要なポイント

全体としていえる

目的をハッキリさせてほしい  
(プログラム)

### 2 日目

ハウストゥハウス (1 回目)

インビテーションを私たち他の国のスカウトにも任せてくれた点→よし詳しく地域を知ることができた。

情報のやり取り

役割の分担

事前集会

ベースラインサーベイのデータ開示

→重要

### 3 日目

ハウストゥハウス (2 回目)

班によって活動が違った→疑問

ゴミ拾いの目的

→習慣をつけさせる。

「ゴミを拾っているのにポイ捨てをしているスカウトがいた。矛盾している」→何故やるのか

焼却炉

午後の準備時間が前日にあってなぜ今日はない。→公平に設けるべき

CJK-B として何をするか

これから先のスカウトの為に  
続けられることを目指す。

### まとめ

- ・事前集会の地点から国と国とがもっと連絡を取るべき、情報交換をするべき。
- ・活動の目的をハッキリさせるために話し合いの場を設けるべき。

## 閉会式／インターナショナルナイト

2月27日、閉会式ではバングラデシュのチーフ・コミッショナーより参加証が手渡された。

その後には、各国5分ずつ伝統芸能やダンスを発表するインターナショナルナイトが開催された。基本的に他国の演目は、各交流プログラムで披露されたものと同様であった。



日本派遣団は昨年の情報を参考にしてゲーム企画などを考えていたが、閉会式からの流れがあったため、フォーマルな演目が求められたこと、会場がステージと客席で分かれていたことなどから、「世界に1つだけの花」を歌って振り付けをつけるというプログラムに変更した。

最終的には客席の協力を得て、各国のダンサーを舞台上に引き上げて一緒に踊るなどの方法を取ったが、情報の伝達不足と準備不足を痛感するプログラムとなった。実施のするしないに関しても、土壇場でクルーの中で揉め、インターナショナルナイト担当者の方にご迷惑をかけてしまうこともあった。しかし、最終的にはクルー全員が「やって良かった」と思える形になったのは良い結果だったと思われる。

今回は日本派遣団隊の人数の少なさなどが関係し、音源以外の衣装や小道具などを持ち込めなかったが、あつた方がより日本の伝統文化を広く伝えられるであろうし、その方が良い結果になっただろうと強く感じた。また、いつ、どのようなプログラムを行ったら良いのか、についてはよくよく幹事国や開催国とすり合わせを行うべきであった。



## 派遣員の感想

千葉県連盟 八千代習志野地区 八千代第5団 ローバー隊

古田 尚輝（クルーリーダー）

私は今回のC J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣が初めての海外派遣でした。今回、このプロジェクトに参加したきっかけは自分の通っている大学の学科が取り扱っている分野に類似していたということと、国際交流に興味があったこと、また実際に現地では何が問題となっているかを自分の目で確かめたいと思ったからでした。4回の事前集会から「バングラデシュとはこういうところだ」というイメージはできていましたが、実際にバングラデシュに行ってみると想像とは大違い。早速カルチャーショックが僕を驚かせました。空港からでると待ち受けていたのはたくさんの人、車に乗って街に出れば道路を行き交うリキシャや車、いたるところに広がっているゴミ。日本ではまず見られない光景でした。初めて見る光景の数々に僕は啞然としていました。また、向こうで出る食事はほぼカレーで毎日の食事が刺激的。そんな中で現地のスカウトたちやプログラムを通じて村の人々と交流していると、「日本とはどんなところなのか」とか「日本語で～はなんていうの」などの質問を沢山されました。このことからバングラデシュの人々が私たち外国人に対しての凄い興味を抱いていることを実感しました。

また、クルーリーダーとしてクルーの意見を取りまとめ、他の国と日本とをつなげる役目を持っていました。私はこの役務を通じて自身の英語力や情報伝達力が低いことを実感しました。しかしこの役割を経験することは自身にとって大きな成長となったと感じます。自分よりはるかに高い能力を持つ人たちの中に混ざり、自分の意見を伝えることで「ここはこの単語を使えばよかったか、あの国は何が言いたいのか」を日が経つごとにだんだんと理解できるようになったからです。



今回このプロジェクトに参加してみて、多くの事を見て、感じて、学ぶことができました。バングラデシュに触れ、現地の人々に触れ、今後の自分をどう変えてゆくべきかを考える上で、このプロジェクトは大きなきっかけになってくれました。成功したこともあれば失敗したこともありました。しかし、同じ派遣団の仲間や各国のスカウトとの交流のなかで「今日はこうだったから、明日は改善して頑張ろう。」という気持ちになれました。この1週間で得た経験と知識はどれも大切なものばかりです。このプロジェクトで学んだことをただ「いい経験だった」で終わらせず、その経験を生かして次のステップに生かしてゆこうと思います。

### 神奈川連盟 江南地区 平塚第7団 ローバー隊 大橋 えつこ（記録・広報担当）

この派遣について知ったのは、自隊の副長が参加されたアジア太平洋提携プロジェクト（バングラデシュ）派遣について、お話を聞いたことからだった。それから3年近く経ち、ようやくバングラデシュの地を踏むことが出来た。



飛行機を降りて最初に見えたのは土埃が舞う空港滑走路。空港からでて、出迎えてくれたバングラデシュのスカウトと指導者と一緒にTOYOTAの車に乗り、舗装されているがガタガタする道路を通行した。車窓から眺めるダッカの街並みに私は期待と不安を持った。今考えると、この不安は緊張とも言えると思う。指導者を含めてもたった5人しかいない日本派遣団にどんなことができるのか？そんな緊張から抜け出すのに長い時間がかかってしまい、他国のスカウトと自然に会話できるようになったのは、バングラデシュ到着から3日以上かかってしまった。これは、この派遣における私の最大の反省点である。

出発一週間前に治安上の理由から突然、開催場所の変更を余儀なくされた本派遣は、幹事国の台湾のスカウトや、布林ダとスミタをはじめとするバングラデシュのスカウトたちがいなければ、成り立たなかったと思う。本当に僅かな時間の中で彼女たちはプログラムを作り上げていった。改めて感謝を伝えたい。

さて、バングラデシュ滞在中の日々はどれも忘れることができないほど、とても濃い日々だった。移動中の車窓から見える街並みは、土埃が舞っていて、マスクもしている人も多

い。商店がならぶ市場には、キャベツやナスなどの野菜、魚や肉も売られている。歯医者や理容室もある。そんな日常の風景があった。みな疲れて眠っている車内の中で一人車窓を眺めていると、同じ国際班のフォイサルが「ジェシーは外を見るのが好きだね」と声をかけてきた。ジェシーは私のあだ名である。フォイサルはじめとするバングラデシュスカウトたちは本当に面倒見がよく、私たちのことをよく気にかけてくれた。そうした、彼らの暖かさが帰国した今でも恋しくなる。寂しさを感じると、「Don't cry jessy」と彼らの声が聞こえてくるような気がするのだ。「Don't cry jessy. Don't cry」と言われながら、トリーナやアキと抱き合った別れの時、日本派遣団の仲間は最年長の私があんなに泣きだしたことに驚いたと思う。さらに、空港で最後まで来てくれたムーニンとアジイズと対面したとき、私はまた泣きそうになっていた。その所為か、バンコクの空港で韓国派遣団の仲間に「Don't cry, jessy. Don't cry」と笑われてしまった。

ムーニンは、20歳の青年で、私が最初に話をしたバングラデシュのスカウトである。トウベヤンソンのキャラクター、ムーミンと名前が似ていて、本当に名前がムーミンだと思ってしまった。そのことを伝えたのが最初の会話だった。

アジイズは高校の数学教師でスカウトの青年。彼は、私と古田スカウトのベンガル語の先生である。彼のおかげで私たちはベンガル語の自己紹介をマスターした。インターナショナルナイトでのハプニングで場をつなぐのに、ベンガル語で自己紹介をした時、一番喜んでくれたのが、このアジイズだった。また、彼はブース・デモンストレーションの2日間ずっと、現地のバングラデシュ人に私たちが用意した水のろ過装置の説明をベンガル語でももらった。この水のろ過装置というのは、平成25年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣で行われた、ベースライン・サーベイを元に我々日本のスカウトが用意したものだった。残念ながら、本年度は場所の変更等によりベースライン・サーベイは滞在中にできていない。



本年度の派遣は「臨機応変」を必要とするものだった。突然の開催地変更。その日のプログラム内容は前日の夜にわかることが多かった。さらに、用意したインターナショナルナイトのゲームがダンスに切り替わるなど。ハプニングがとても多かった。6カ年計画のこの派遣事業がどのような進捗で進むのか、プログラム内容やプロジェクトのあり方についての良し悪しは現段階ではつけられず、結果がわかるのは、長い時間を要すると私は考えている。ただ、ローバースカウトが主体となつての活動は今度も変わらず、続いて行ってもらいたい。ローバースカウトの

活動は海外派遣だけではないが、こうした、大きなプロジェクトは私たちローバースカウトに大きなきっかけを与えてくれるものだった。また、このような経験をぜひ、ローバーやベンチャー、ボーイなど他のスカウトたちへ伝えていきたい。今後の私の目標は、バングラデシュ派遣で得られたことを他のスカウトへ伝えていくことである。そして、再び、バングラデシュの地を踏むことである。

## 千葉県連盟 千葉地区 千葉第8団 ローバー隊 青柳 里奈（会計・備品担当）

私は過去に韓日スカウトフォーラム派遣及び日韓スカウトフォーラムに参加した事がある。しかし、これらはユースフォーラムであるため、意見交換会が主な活動である。このような形の活動そして派遣は初めての経験となった。

しかし未知なる場所での活動への想いは憧れより不安の方が大きかった。まさか派遣員が4人になるとは思いもよらなかった。加えて過年度派遣員は皆無。派遣2週間前に突然の活動場所変更。言葉通りの「ゼロからのスタート」になってしまった。やれるだけの準備をしたものの、不安を完全に払拭出来ないまま私は当日を迎えてしまった。



いざ現地に辿り着き活動を開始すると、毎日が目まぐるしく過ぎた。近藤派遣団長は事前準備の段階で私達に「君達の思い通りに事は進まない。準備したものがそのまま通用しない事だってあるから覚悟しなさい。」と厳しく助言して下さった。確かにその通りだろうと腹は括っていたが、実際にその状況になると頭を抱えることが多い。人手不足によって每晚同じ部屋に集まり、寝る直前まで会議をしたり活動に使用する道具を作ったりしていた。しかしこのような状況下でも乗り切ることが出来たのは、4人の中に結束力があつたからだろう。人数が少ないのは私達の最大の弱点であったが、それと同時に仲が良くな

るスピードは速かった。話し合いもし易く、互いの状況を確認しあう事も出来た。

私は非常に良い仲間に出会えた。日本派遣団長の"キャプテン"である古田くんは最年少でありながらも、常に私達を気遣ってくれる人である。英語が苦手だと嘆いていたが、それを十分にカバー出来る彼のコミュニケーション能力には驚かされた。分からない事や不安な事は抱え込まず、すぐに相談してくれるのも彼の良い所である。逆に最年長である大橋先輩はジェシーの愛称で他国のスカウトから親しまれていた。彼女の積極的な姿勢は周囲のやる気を引き起こし、それに応えようと数々のスカウトが彼女の周りに集まった。最終日は仲間との別れを惜しんで涙を流す心優しい面を見せてくれた。そして私と同年であるエリーこと伊東さんはけん玉の達人だ。彼女は物静かな女性であるが、けん玉を通して交友関係を広げていった。彼女が技を披露するとスカウトだけではなく来賓の方々まで興味を示し、けん玉に手を伸ばす。また彼女は絵を描く事に長けており、デモンストレーションやプレゼント交換等でもその能力は十分に発揮されていた。自分の特技で仲を深めていく手法は見事なものである。



このように日本メンバーは一人ひとり異なった個性を持ちながらも、互いを支えあう事が出来た。しかし「良い仲間」というのは日本スカウトだけではない。準備期間から大変お世話になった近藤派遣団長、明るく前向きであり文化も近い台湾

派遣団や韓国派遣団の方々、そして何より私達を24時間常にサポートし続けてくれたバングラデシュのスカウトの方々も含まれている。私は不安を引きずったまま活動を始めてしまったが、彼らのおかげでそれを払拭する事が出来た。彼らの行動力と親切な心は足踏みしていた私の背中を後押ししてくれた。不安は自信になり、今の私の大きな糧となっている。

## 神奈川連盟 江南地区 平塚第7団 ローバー隊 伊東 なみ子（レクリエーション担当）

私はこの平成26年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣が、初めての海外派遣であり、そもそも初めての海外渡航であった。

海外とは日本とどのように違うのだろうか、私のような英語能力の低い者でも活動にきちんと役立つのであろうか、体調は崩さないだろうか。不安は行く前から募る一方であった。

実際に行ってみて今、強く感じることは「行ってみなくては分からない」ということである。出発までに「町はこうだよ」「人はこうだよ」と、過去の派遣に参加した先輩方や、バングラデシュに詳しい方などに様々な知識を教えて頂いた。それらの多くはバングラデシュでの生活の中で大いなる助けとなった。しかし、やはりバングラデシュと一口に言っても、地域によってその様相は大きく異なり、そこに暮らす人々も様々である。



特に今年は昨年と参加メンバーも開催地も異なっていたこともあり、色々と一筋縄ではいかない事態も発生した。出発前の知識で思い描いていた予想は様々な意味で打ち砕かれることにもなった。

そうした中で感じたのは、やはりこれまではこれまでで、今回は今回だ、ということである。今回私が見た景色は、きっと昨年の派遣団の方々が目にしたそれとは違うだろう。そして来年の派遣団の方々も、きっとまた違う景色を目にすることと思う。それは、その景色を見た人たちでないと分からないことなのだろう、と改めて感じている。

実際に、困ったことは沢山あった。私がレクリエーション担当として持っていった企画は、日本で考えていた時とは大きく形を変えて実行される結果になった。事前に考えていた状況と、実際の状況が大きく違ったからだ。しかも、想定よりも準備と人手が大きく不足していて、常にメンバー全員でドタバタと走り回っていたように思う。ジャパナイトで声を張りすぎて、数日は声が掠れてしまうこともあった。自分の英語の聞き取り能力と会話能力の低さに大いに落胆する10日間でもあった。自分なりに頑張って話しかけて、返ってきたのがよく分からない、という苦笑いだったなんてこともよくあることだった。

しかし、どれもこれも、実践の場に来たからこそ分かる反省点であった。「～だったらどうしよう」「～って本当はどうなのだろう」を、実際にやってみて、自分のどんなところをどう改善しなければいけないのか、ということが具体的に分かったというのは大きな収穫であったと思う。

文化や風土の違いにも大きな驚きがあった。初めてダッカの空港に降り立った日にはまず、2月の日本にはいるはずのない蚊がいることにびっくりしたけれど、市街地を車で走っているうちにそのびっくりは上書きされた。当たり前のように、ごみ捨て場に牛がいるなんて思いもしなかったからだ。その数十分後には、ケンタッキーフライドチキンのチキンの辛さに心底びっくりした。その後も毎日、何かしらの形でびっくりは上書きされ続けていった。

しかし、ようやく日本に戻ってくると、逆に平らすぎる道路や透明な大気、道に犬や牛やリキシャがないことに違和感と、寂しさを覚えるのだから不思議なものであると思う。

バングラデシュではまた、様々な人々との交流があった。1番最初に出会ったのは中継地点のバンコクで出会った韓国隊で、スカウトセンターでバングラデシュのスカウト達に出会い、22日の朝に台湾隊と出会った。ハウス・トゥ・ハウスやブース・デモンストレーションではつたないながらも現地の住人の人々との交流を持つことができた。高いとは言えない会話力では、言いたいことや伝えたいことがうまく言い表せず苦労も多かったが、その分会話が成立した時の喜びは大きかったように思う。これまで顔を合わせたこともなかった、異なる母国語を持つ人たちと会話をし、共に活動をし、食事をするという人生で初めての経験を積むことができた。それは日本という環境ではなし得なかったことである。

今回の平成26年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣は、日本のなかでの当たり前だと思っていたものごとをことごとく打ち砕き、これまでの人生には無かった新たな価値観を与えてくれたと感じている。思い切って参加してみたことを、行く前は後悔しないかと不安に感じていたが、今ではそんなことはみじんも感じていない。参加して良かったと心から思っている。

そして、何よりもこの平成26年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣に協力してくださった方々、携わって下さった方々に多大な感謝を申し上げたい。



## 平成26年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣報告

派遣団長 近藤 明彦

1998年から2012年までの3次・計15回に渡って実施された「アジア太平洋提携プロジェクト（バングラデシュ）派遣」では日本とバングラデシュのローバースカウトがORT（経口補水療法）、プライマリー・ヘルス・ケア、環境保全をテーマに提携プロジェクトが展開された。これとは別に2003年より2011年までの2次・計9回に渡って、台湾・日本・韓国の三カ国のローバースカウトがフィリピン・マリキナ市において現地のローバースカウトの援助のもと、プライマリー・ヘルス・ケア、各国文化紹介をテーマとして地元の小学校および地域の子ども達を対象にした提携プロジェクト「C J Kプロジェクト派遣」を展開してきた。

両プロジェクトの経緯を踏まえ2013年2月には新たなバングラデシュでのプロジェクト実施に関して予定地の実地踏査が行われた。そして2013年より6年間の「C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣」の覚え書きへの調印が台湾（C）、日本（J）、韓国（K）、バングラデシュ（B）各連盟の代表者によってなされた。プロジェクトの内容はプライマリー・ヘルス・ケアと環境保全活動とし、実施場所はジャマルプール、シャリアプール、クアカタの三ヶ所で各4年間の実施が予定された。プロジェクトの実施にあたってはC J Kの三ヶ国が交代で幹事国をつとめることとし2014年2月に実施された第1回派遣では日本が幹事国をつとめた。当該年度の日本隊クルーリーダーは過去のバングラデシュ派遣に4回参加した経験を持つ者で、短期間に4カ国の参加メンバーとの情報共有を図ることが出来たと報告している。これまでのバングラデシュ派遣においては何れの派遣に於いても過年度派遣の経験者の何名かが次の派遣にも残り過去の経験を生かすことが出来ていた。この点がプロジェクトをスムーズに展開するためのキーとなっていたと評価できる。

第2回の平成26年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣では各国が9名のスカウトとアドバイザー1名の10名の派遣隊を編成する予定であったが、日本派遣団は4名のスカウトと1名のアドバイザーの5名体制での派遣となった。さらに今回の派遣メンバーには過年度のプロジェクト経験者がいないという状況であった。事前訓練において過年度バングラデシュ派遣経験スカウトによる情報提供などにより、現地での活動についての概要を知ることは出来た。しかし初めてのメンバーのみでのプロジェクト展開においては準備段階からの各種の判断において困ることが何度かあった。さらに出発一週間前にプロジェクト展開場所が当初予定されていたジャマルプールからガジプールに変更になるなどの影響により今後の派遣に対して解決しなければならない幾つかの課題が明らかとなる派遣であった。

まず、昨年の平成25年度C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣では過去のバング

ラデッシュ派遣やC J Kプロジェクト派遣の経験者が参加したこともあり、バングラデッシュ・スカウトと日本のスカウトで話をスムーズに進める事が出来たとの報告であった。しかし今回の派遣においては、各国からの参加スカウトの状況はC J K三カ国のスカウト・アドバイザーとともに過年度のバングラデッシュ派遣経験が無く、バングラデッシュのスカウトも3名のみが過年度の参加者ということであった。さらに今年度は直前のプロジェクト実施場所の変更もあったため幹事国も当初上手くリーダーシップをとれない現状であった。特に、従前の派遣ではプログラムとして組み込まれていたベースライン・サーベイが既にバングラデッシュのスカウトによって行われており、その情報を事前に共有できていないという状況であったことが問題であると考えられた。これまで行われて来た日本とバングラデッシュのスカウトによる提携プロジェクト時代の名残か、バングラデッシュのスカウトの主導部分が目立った。この件に関しては各国のローバー代表とアドバイザーの合同会議に於いて情報の事前共有の重要性を再確認した。

開会式翌日の2月23・24日はハウス・ツー・ハウスのプログラムを実施した。これはバングラデッシュのローバースカウトが事前に調査した現地の家庭を4カ国のスカウトによって編成された4組の国際班により実施した。台湾、日本、韓国のスカウトがバングラデッシュのローバーの助けを借りながらベンガル語で次のプログラムであるブース・デモンストレーションへの招待を行うと言うものである。またゴミのポイ捨てが問題であるということからハウス・ツー・ハウスで村内を廻るときにゴミ回収のデモンストレーションを行った。またトイレ等が劣悪な環境にある家に対してはトイレの設備を設置することを約束するトークンが本プロジェクトより渡された。

2月25・26日の二日間はメジャプール・ハイスクールとバンシェル・ゴバメン小学校において地域住民を集めてのブース・デモンストレーションを行った。日本派遣団はブース・デモンストレーションでミズ問題に関するテーマ・ブースと日本の伝統的な遊びに関する文化交流プログラム・ブースの2つを実施した。ブース・デモンストレーションプログラムの展開でも事前情報の共有の問題からか交流プログラムの準備が不十分な派遣団もあった。

これに加えて、メジャプール・ハイスクールとバンシェル・ゴバメン小学校の二ヶ所にゴミ焼却場所を煉瓦で作成し、ハウス・ツー・ハウスの際に集めたゴミを焼却するというデモンストレーションを行った。このゴミ処理のデモンストレーション・プログラムは「アジア太平洋提携プロジェクト（バングラデッシュ）派遣」時代に日本のローバースカウトの提案によって実施され継続しているものである。また事故で両足と片手を失った子どもへの車いすの寄付と卒業までの奨学金の授与が本プロジェクトより行われるとの事でありその授与式が27日に行われた。プロジェクト実施期間中の夕食後にはジャパンナイトのように参加4カ国のスカウトが交代でホスト役を勤めて交流プログラムを実施した。このことにより参加スカウトは大いに親交を深めることが出来た。

今回の派遣を通して今後必要だと思われる事項は以下の3点である。まずプログラム実

施場所であるバングラデッシュのニーズを把握すること。そしてプログラム実施主体であるC J K-Bの4カ国がこれまで以上に事前情報の共有を計ること。最後に各国の参加ローバースカウトがバングラデッシュの状況を理解した上でプログラムの企画・計画・実施に対して主体的に取り組める環境を作り上げることである。C J Kプロジェクト・バングラデッシュ派遣はこれまで行われていた2つの大きな国際プロジェクトが合わさった形での新たなプロジェクトであり、日本のみがこの2つのプロジェクトを経験してきている。日本派遣団としては今後もこの点を意識して4カ国の調整役として果たさねばならない課題が多くあると考えた。

## 伊東スカウトのメモリー・オブ・バングラデシュ

村の住民の方々に対するプログラムや、毎晩の国際交流プログラム外でも、私たちは様々な交流を行った。それまで国別のテーブルで撮られていた食事も、2回目のブース・デモンストレーションが終了した後は、各テーブルに各国のスカウトが混じりながら団らんとする姿が見られた。2日目からは、幹事国である台湾と、開催国であるバングラデシュが協力して開催した「シークレット・パル（秘密の友達）」というプログラムも始まった。これは、毎朝朝礼の後に匿名で他国のスカウトに手紙やプレゼントを送り、最終日に贈り主を明かすという面白い試みで、私もとある台湾のスカウトに絵葉書を送り、とある韓国スカウトから手紙やプレゼントをいただいた。その他にもスカウト間でのワッペンやグッズの交換が盛んに行われ、最終的にはみんな行く前よりもスカウトグッズが増えていた、なんてこともあった。

特に私の交流の中心となったのは、出国前に日本で買って行った剣玉であった。最近流行のプラスチック製で光る様なものではなく、ごくごく旧式の木製剣玉だ。剣玉を持って行ったからと言って、私にできるのはもしかめ位のものであったが、夕食の後の休憩時間に日本の隊員たちでかっこんかっこんと遊んでいると、バングラデシュのスカウトたちが集まって来るのだ。そして、交代に剣玉をまわしながら大皿に載せたり、少し難易度を挙げて中皿に載せようとチャレンジしたりして盛り上がる事ができた。



中にはそれまでにやったことのないはずなのにずば抜けてのあるスカウトもいて、周りが大皿載せに苦戦している中、もしかめを連続10回で成功させた強者もいた。それがバングラデシュ滞り2日目、ウェルカムディナーの後の話だったが、その日から日を重ねるごとに彼らの腕前が目に見えて上がっていくのには心底驚いた。私も負けていられぬと、日本隊員の携帯端末を借りて剣玉の技を検索して練習に励んだ。玉を剣先に入れるとめけんは、近藤派遣団長直々に教わったひざの使い方により大分成功率をあげることができた。

しかし、ジャパナイトの後に、バングラデシュのスカウトであるライハン隊員と共に剣玉を遊んだ時に、彼は4回連続でとめけんを成功させた。同じく、バングラデシュのスカウトであるラッセル隊員は、もしかめを連続で15回も成功させた上に、私

が調べて教えたろうそくや90点、空中ブランコなどを次々と完成させてしまった。最終日に近くなると、剣玉勝負のようなものも行われた。結果は引き分けであった。つまり彼らはたかだか数日間で悠々と私の剣玉スキルに追いつき、そして追い抜いていったのである。まったく知らない国で、これまで知らなかった人々と日本の玩具で遊ぶという体験は、言うまでもなく人生初めてであり、とても楽しいものであった。

結局、私の持参した剣玉はシークレット・パルの送り主明かしの後に、きっとこれからもっと上達するであろうと思われたラッセル隊員に譲り渡した。出発3日前に買った剣玉協会認定剣玉は、たったの数日間の間にいくつもの細かなへこみや傷がついていた。新品をあげられなかったことは少し残念にも思われた。しかし、その数えきれない傷たちは同時に、私と今回のC J Kプロジェクト・ Bangladesh派遣に参加したスカウト達との交流の証でもある。私は、もしあの剣玉が他の誰かに買われていたら、決してつかなかった傷だと思えると感慨深いものがあるな、と最終日前夜にラッピングをしながら感傷に浸っていた。私は日本でまた新しい剣玉を買うことになるだろうと思う。

最終日、ダッカ空港に出発する直前に、スカウトセンターの前ではもう1日 Bangladeshに残る台湾スカウトたちや Bangladeshスカウトたちとの別れがあった。私はたくさんの感謝や別れの言葉を言おうとしたが、うまく言えずに握手やハグに代えることとなった。わずか10日ほどの日程の中で、私は彼らと友達になることができた。それはある意味、自分がスカウトであったからこそできたことであると思う。彼らが流す涙に、私も思わず胸が苦しくなったのを覚えている。短い間ではあったが、その中で培った友情と言うものは、本物であったと感じている。

そして、Bangladeshに渡ったあの剣玉はこれから是非ともたくさん使われて、使われた分だけ手あかにまみれて、傷だらけになって行って欲しい、と今も思い続けている。



## お気に入りの写真

私のお気に入りの写真（右）です。  
この写真は2日目のハウス・トゥ・  
ハウスの時に撮ったもので参加四か  
国の友情と決意が感じられる一枚だ  
と思っています。

古田尚輝（クルーリーダー）



左の写真は一通りプログラムが  
終了した次の日の朝食に撮ったも  
のです。安心しているためか、顔に  
余裕の色が見られます。一緒に写っ  
ているのは韓国派遣団の派遣団長  
です。彼は日本の文化に興味がある  
ようで、日本語もいくつか知ってい  
ました。私も彼に日本語、特に若者  
言葉をいくつか教えました。彼は気  
に入ったようで、しばしば韓国隊の  
中で流行になっていました。

青柳里奈（会計・備品担当）

## 便利だった物事・準備しておくべきだった物事

### <便利だった物事>

- ・ 虫除け・かゆみ止め  
虫さされやあせも等の対策として。バングラデシュは2月でも非常に蚊が多く、虫対策は必須。ガスが入っているものは空輸できないため、虫除けは液体タイプと線香タイプにすると良い。
- ・ ウェットティッシュ  
食事前の手拭きや食器拭き用に重宝した。生水をそのまま摂取するとお腹を壊すこともあるため、食事前には食器をペーパーナプキン等で拭くことが推奨されている。
- ・ パソコンとプリンター  
現地でも会議用や打ち合せ用に複数部の資料の作成が必要になることがあり、その際にパソコンとプリンターは重宝した。機材用旅行保険とコンセントの変圧器も共に必要となる。
- ・ カメラとメモリーカード  
活動記録として写真を残すために。文字での記録をつける暇がないことも多く、写真の日時を参照できるとより正確な記録となる。非常に多くの写真を撮るため。メモリーカードはできるだけ大きい容量が推奨される。また、複数枚あると、他国のスカウトから持っていない写真を入れてもらう際に便利である。

### <準備しておくべきだった物事>

- ・ 各種予防接種…  
現地には予想よりも野犬や放し飼いの犬も多く、有事の際に備えて狂犬病や感染症への対策はしておくべきであった。ナショナル・スカウト・トレーニングセンターの敷地内にも何頭かの犬が話し飼いにされていた。また、接種と接種との間に日を置く必要があるため、外務省の医療情報を参考にしつつ、出発日から逆算し余裕を持った接種スケジュールを考えておくべきであった。
- ・ 文化紹介に関する物品  
夜に行われる国際交流やブース・デモンストレーションなどで日本の文化紹介をする際に、スケッチブックや折り紙などの資料だけでなく、浴衣など伝統衣装や小道具のようなものがあればより華やかで現実味のある紹介ができただろうと思う
- ・ 簡単な歌や覚えやすい手遊び…  
英語やベンガル語を用いての交流の中で、言語が関係なくレクチャー・プレイできる簡単な歌や手遊びがあると役に立つ

## 参考資料一覧

- ・外務省 渡航情報：バングラデシュ

(<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo.asp?id=012>)

バングラデシュに関連して危険、スポット、広域情報、安全の手引き、必要な予防接種を含む医療情報などが掲載されている

- ・外務省 基礎データ：バングラデシュ

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bangladesh/>)

バングラデシュの国土や政治経済などの基本的な情報がまとめられている。

- ・人さし指会話 ベンガル語

(<http://kanaben.s3.zmx.jp/index.php?指差し会話ベンガル語>)

バングラデシュに詳しい方が参考資料として紹介してくれたシチュエーションごとにページが分かれている指さし会話帳。今回も現地で簡単な文章や単語、あいさつなどを使って交流するのに役立った。

- ・カタカナ ベンガル語

(<http://kanaben.s3.zmx.jp>)

上記のサイトトップ。バングラデシュにおいて役立つような単語集や例文をカタカナ書きで紹介しているサイト。

- ・日英対訳 日本文化キーワード事典

(<http://www.japanlink.co.jp/ka/>)

ブースデモンストレーションでは、健康や衛生といったレクチャーブースの他に、自国の文化を紹介するカルチャーブースがあり、そこで紹介する際に参考としたサイト。日本文化における衣食住や、行事などがリスト化されている。





公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

住所 〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3

電話 03-5805-2561 (代表)

ファクシミリ 03-5805-2901 (代表)

発行 2015年3月